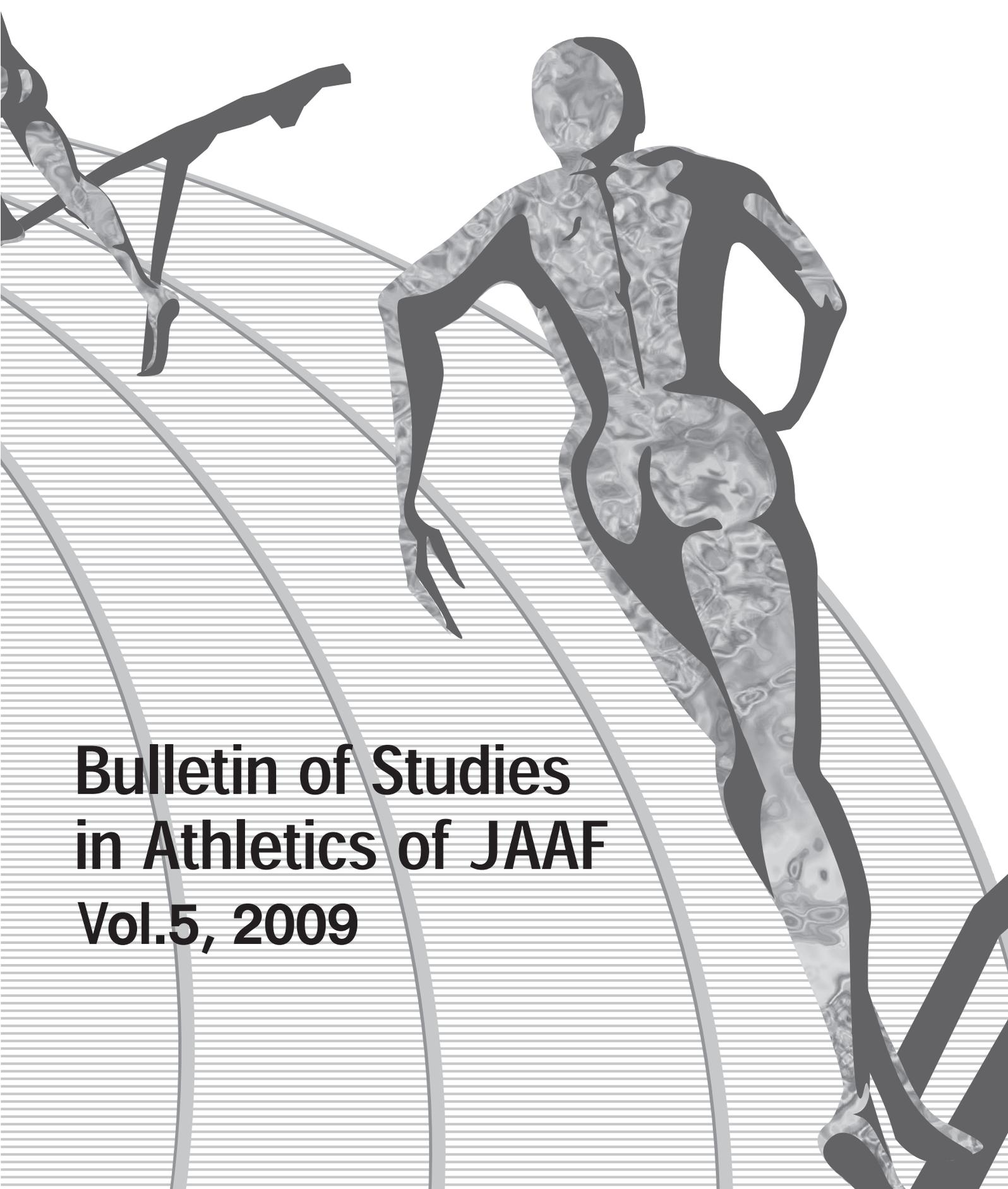


**JAAF**

財団法人日本陸上競技連盟  
ISSN1349-7596

# 陸上競技研究紀要



**Bulletin of Studies  
in Athletics of JAAF  
Vol.5, 2009**

# 「陸上競技研究紀要」

(Bulletin of Studies in Athletics of JAAF)

## 投稿規定

陸上競技研究紀要編集委員会

### 1. 投稿資格について

本紀要に投稿できるのは、原則として(財)日本陸上競技連盟登記登録者(例:公認コーチなど)とするが、それ以外でも編集委員会が認めた場合には投稿することができる。

### 2. 投稿内容および種類について

投稿内容は陸上競技についての理論と実践に関するもので、内容に応じて、総説、原著、購読紹介(外国文献の紹介など)、資料、指導法および指導記録の紹介などに分類される。スタイルは和文、英文のどちらでもよい。

投稿論文には英文のタイトル、著者、所属、総説および原著には要約(150語以内)をつける。(注:何らかの理由で英文要約等の作成が困難な場合は、編集委員会にその旨をご相談ください。)

### 3. 採否等について

原稿は査読を行い、査読結果をもとに採否および掲載順序の決定、校正などは編集委員会が行う。

### 4. 原稿の書き方について

原稿は原則として、ワードプロセッサで作成する。本文は、横42文字×縦38字で1頁とする。(1頁は約1600字、刷り上がり10頁以内、図表もその頁数に含む、すべて白黒にて作成)

英文は、A4サイズタイプ用紙を使用し、15枚以内を原則とする。

計量単位は、原則として国際単位系(m, kg, secなど)とする。

また、英文字および数字は半角とする。

### 5. 文献の書き方について

本文中の文献は、著者(発行年)という形式で表記する。

例) 田中(1996)は —————

文献は、原則として、本文最後に著者名の

ABC順で記載する。書誌データの記載方法は、著者名(発行年) 論文名、誌名、巻(号)、ページの順とする。

例) 吉原 礼, 武田 理, 小山宏之, 阿江通良(2006) 女子棒高跳選手の跳躍動作のバイオメカニクスの分析. 陸上競技研究紀要, 2: 58-64.

伊藤 宏(1992) 陸上競技の発育・発達. 陸上競技指導教本—基礎理論編—. 日本陸上競技連盟編, 大修館書店, 55-72.

同一著者, 同発行年の文献を複数引用した場合は発行年の後に a, b, c をつける。

例) 田中ら(1996 b)は, —————

### 6. 原稿の提出先

投稿原稿(本文, 図表など)は、下記へ E-mailの添付資料として送付するとともに、プリントしたもの1部を郵送する。

〒150-8050

東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内

日本陸上競技連盟

「陸上競技研究紀要」編集委員会宛

(Tel 03-3481-2300 Fax 03-3481-2449)

E-mail:kiyou@rikuren.or.jp

### 7. 原稿の締め切り

原稿の締め切りは、2月15日とする。

### 8. その他

本研究紀要に掲載された内容の著作権は財団法人日本陸上競技連盟に帰属する。

問い合わせ先: 上記, 原稿の提出先と同様。

## あ い さ つ

(財) 日本陸上競技連盟  
専務理事 澤木 啓祐

陸上競技の普及と競技力向上は本連盟の主要な目的であり、陸上競技の発展にはこの両輪が不可欠である。

この度、旧普及委員会を中心として取りまとめた投稿論文6編(原著論文:1編、資料報告:5編)、科学委員会を中心とした「医科学サポート研究 REPORT」15編(和文:7編、英文:8編)が掲載された『陸上競技研究紀要 Vol. 5』が発刊される運びとなったが、本誌は普及及び競技力向上における各種調査・研究の成果を蓄積するための役割を果たすものである。

普及に関しては、委員会における主な事業である全国小学生陸上競技交流大会における競技者及び競技会運営に関する調査、及びその他本連盟主催競技会での競技運営に関する調査など、競技者の裾野を広げるとともに多くの人にとって陸上競技が魅力あるものとなるよう、研究を行っている。

また、競技力向上においては、昨年度開催された北京オリンピックにおいて男子4×100mRの銅メダル獲得という輝かしい結果をもたらしたものの、主要な選手が実力を十分に発揮することができずに苦戦を強いられ、課題克服が早急に求められる。競技会におけるコンディショニング、暑熱対策、栄養サポートなどの多角的な対策としての「医科学サポート研究 REPORT」に掲載の世界選手権大阪大会(2007年)や北京オリンピックにおける世界一流競技者のデータ及びコンディショニングの調査・分析が我が国の競技力向上に寄与するものであると期待する。今後さらに普及育成・強化・科学・医事の各委員会間の連携強化による研究成果が求められる。

最後に、ご寄稿いただいた皆様のご尽力に感謝するとともに、本誌をご覧になった方々にとっても指導の一助、また広く陸上競技の普及・発展に貢献できれば幸いである。

# 陸上競技研究紀要

Bulletin of Studies in Athletics of JAAF

Vol.5 2009

## 目 次

### 【原著論文】

- 4 × 100m リレーにおけるバトンパスコンセプトに関する研究  
-日本女子ナショナルチームをモデルに- . . . . . 太田 涼ほか . . . 1

### 【資料報告】

- 第 24 回全国小学生陸上競技交流大会に出場した優秀選手の身体的・心理的側面について  
(その 3) . . . . . 伊藤 宏ほか . . . 9

- 高校生やり投選手における”ジャベリックスロー”の有効性について  
-全国高校総体出場選手を対象に- . . . . . 宮崎明世ほか . . . 19

- 全国小学生クロスカントリーリレー研修大会の競技運営に関する小学生競技者の満足度調査  
-2008 年の大会を中心に- . . . . . 岡野 進ほか . . . 26

- 全国小学生陸上競技交流大会の競技運営に関する小学生競技者の満足度調査  
-2008 年の大会を中心に- . . . . . 阿保雅行ほか . . . 32

- 競技会アナウンスに関する観客の満足度調査  
-セイコースーパー陸上競技大会川崎 2008 を中心に- . . . . . 阿保雅行ほか . . . 38

- 【日本陸連科学委員会研究報告 第 8 巻 (2009) 陸上競技の医科学サポート研究 REPORT2008】  
. . . . . 45